

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	西海市療育支援相談センター		
○保護者評価実施期間	令和8年2月2日		～ 令和8年2月20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	81家庭	(回答者数) 55家庭
○従業者評価実施期間	令和8年2月2日		～ 令和8年2月20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月4日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	プログラムの検討をチームで行っていること	全員が利用児一人ひとりを意識し、グループリーダーを中心に立案し、具体的な手立てや支援の方法を検討している。打ち合わせ、ふりかえりを行いその都度検討を行なっている。	グループリーダーが草案を立案しているため、一人ひとりの負担は大きい。うまく役割分担をしながらプログラムの準備を行い、より利用児への支援の質を高められるようにしたい。
2	お子さんのニーズを客観的に分析し、支援に当たっていること	フォーマルなアセスメントや行動観察、保護者の方への聞き取りなど、複数の視点からアセスメントや評価を行い、お子さん本人の課題を捉え職員間で共有している。	特に活動中の様子について職員一人ひとりが気づきを出し合い、より細かい分析をもって本人の強みにつながる支援の手立てを検討していけるようにしたい。
3	保護者の方とのコミュニケーションを大切に、共通理解を図る様努めているところ	ふりかえりを始め、保護者の方とのコミュニケーションを大切にしなが、お子さんの課題やよいところを共有し、困りに対して生活の中で活かせる助言ができるよう心がけている。	限られた時間のなかで保護者の方とのより丁寧なやりとりを行うことができるよう、職員の専門性を高めつつ、体制を整えていく。またできるだけ個別にお声掛けできるように意識していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	行事やイベント等を通しての地域の子どもたち、またきょうだい児との交流について	支援の提供の形態上、関係機関連携とは別の在り方で地域交流を積極的に行っていくことが難しい。利用児すべてが地域の園に就園していることもあるので、情報共有等は適宜行っている。	地域交流については現在のかたちを維持していきたい。また、きょうだい児支援については保護者の勉強会や交流会のなかでもテーマとして取り上げたり、イベント等の企画等を検討したい。
2	職員間のコミュニケーションの在り方について	利用児支援については、打ち合わせやふりかえりのなかで経験の浅い職員が自信をもって意見を言える場が少ない。また、それぞれの考え方やアイデアがあるが、主観に寄りすぎてももとの目的やねらいがずれてしまうことがある。	職員の経験や立場に関わらず、自分の気づきや考えを伝えられるような話し合いの流れを作る。また研修の機会をより設け、専門性を高めていく。チームでの共通事項をその都度確認し、支援の主軸がぶれないようお互いを尊重しながら伝え合うようにする。
3	職員の研修の機会について	ニーズが高く多くのお子さんが利用してくれているが、その分研修等に使える時間が限られている。	年間を通して改めて研修予定を見直し、計画的に研修を行えるようにする。また業務負担をうまく行い、外部研修への参加を積極的に行えるようにしていく。